

水稻育苗箱専用長期持続型殺菌剤

Dr. オリゼ[®] 箱粒剤

農林水産登録 第19721号

● 葉いもち



● すりこみいもち



● 穂いもち



いもち病に

箱にまくだけ、
なが〜い効き目!



殺菌剤分類 P2

MMAG



箱にまくだけ、なが～い効き目。



水稻育苗箱専用長期持続型殺菌剤

農林水産登録 第19721号

Dr. ^{ドクター}オリゼ® 箱粒剤

●有効成分：プロベナゾール …… 24.0% ●人畜毒性：普通物※ ●包装：1kg

※毒劇物に該当しないものを指している通称

【特長】

1. 植物の病害抵抗性を誘導して高い効果を現す抵抗性誘導型殺菌剤です。
2. 特殊製剤(有効成分の溶出制御)により長期残効と水稻に対する安全性が期待できます。
3. 育苗箱施用で葉いもちの発病を長期間抑えることにより、穂いもちの感染を抑えることが期待できます。
4. 各種薬剤耐性いもち病菌に対して有効です。
5. 病原菌に直接作用しないため耐性菌出現の可能性が低いです。
6. 育苗箱当たり50g施用で、省力防除が期待できます。

【適用病害虫及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病	育苗箱 (30×60×3cm.) 使用土壌約5ℓ 1箱当たり50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上 から均一に散布 する。	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内)
	穂枯れ (ごま葉枯病菌)		移植当日			

※このチラシの記載内容は2022年1月4日現在のものです。

【上手な使い方】

1

専用計量箱で所定量を計り均一に散布する。

2

苗に付着した粒剤は払い落とす。

3

軽く散水し粒剤を土壌表面に定着させる。

●効果・薬害等の注意

1. 育苗箱の苗の上から所定量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とし、十分灌水してください。
2. 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水は避けて下さい。
3. 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用してください。
4. 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはいねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意してください。
5. 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意してください。
6. 砂質土壌、漏水田、未熟有機物多用田では使用しないでください。
7. 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用を避けて下さい。
8. 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。
9. 有効年月内に使用してください。
10. 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 使用後の空袋は、圃場などに放置せず、適切に処理してください。
- 防除日誌をつけましょう。

お問い合わせ/ご注文は